

那珂86

— 那珂遺跡群第181次調査の報告 —

2022

福岡市教育委員会

那珂86

- 那珂遺跡群第181次調査の報告 -



遺跡番号 NAK-181
調査番号 2004

2022

福岡市教育委員会



第181次調査1区全景（西から）

序

福岡市は玄界灘に面し、古代より大陸・半島との交流が絶え間なく行われてきました。なかでも博多区那珂周辺には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が濃密に存在します。近年の著しい都市化により失われるこれらの文化財を後世に伝えることは、本市の重要な責務です。

本書は、那珂中学校造成工事に伴う那珂遺跡群第181次発掘調査について報告するものです。この調査では柱穴や土坑、溝等を検出し、弥生時代から近世、近代に至るまでの土器・陶磁器等が出土しました。これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、那珂中学校をはじめとする関係者の方々には発掘調査から本書の作成に至るまでご理解とご協力を賜りました。心から感謝申し上げます。

令和4年3月24日

福岡市教育委員会
教育長 星子 明夫

例 言

- 本書は令和2（2020）年4月13日から6月22日に福岡市教育委員会が行った、博多区那珂2丁目18番1号所在の那珂遺跡群第181次調査の発掘調査報告書である。
- 本書に用いた座標系は世界測地系であり、本書の図に用いた方位は座標北である。
- 検出遺構には2桁の連番号を付し、遺構の性格を示す記号として、SA（柵）、SD（溝）、SP（柱穴・ピット）を用いた。
- 本書に掲載した遺構実測図の作成は今井隆博が行った。
- 本書に掲載した遺物実測図の作成は平川敬治・今井が行った。
- 本書に掲載した挿図の製図は野口聰子・今井が行った。
- 本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は今井が行った。
- 本書に関わる遺物・記録等の全資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。
- 本書の執筆・編集は今井が行った。

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	第181次	遺跡略号	NAK-181
調査番号	2004	分布地図図幅名	板付 24	遺跡登録番号	0085
申請地面積	550m ²	調査対象面積	550m ²	調査面積	394m ²
調査地	福岡市博多区那珂2丁目18番1号			事前審査番号	2019-1-24
調査期間	令和2（2020）年4月13日～令和2（2020）年6月22日				

本文目次

I	はじめに	1
1.	調査に至る経緯	1
2.	調査の組織	1
II	遺跡の立地と環境	2
III	調査の記録	7
1.	調査の概要	7
2.	遺構と遺物	7
①	樋・柱穴列 (SA)	7
②	溝 (SD)	7
③	その他の出土遺物	15
IV	おわりに	16

挿図目次

第 1 図	那珂遺跡群と周辺遺跡 (S=1/25000)	3
第 2 図	那珂遺跡群調査地点位置図	4
第 3 図	調査区位置図 (S=1/1000)	5
第 4 図	調査区位置図 (S=1/500)	6
第 5 図	調査区全体図 (S=1/200)	8
第 6 図	SA21 実測図 (S=1/60)	9
第 7 図	SD01 断面図 (S=1/60)	10
第 8 図	SD01 出土遺物実測図① (S=1/3)	11
第 9 図	SD01 出土遺物実測図② (S=1/3)	12
第 10 図	SD01 出土遺物実測図③ (S=1/3)	13
第 11 図	SD01 出土遺物実測図④ (S=1/3・1/2)	14
第 12 図	SD01 出土遺物実測図⑤ (S=1/3)	15
第 13 図	SD15 実測図 (S=1/60)	15
第 14 図	その他の出土遺物実測図 (S=1/3)	15
第 15 図	調査地点周辺旧地形図 (S=1/20000)	16
第 16 図	昭和初期の周辺地形図 (S=1/4000)	16

図版目次

巻頭図版

第181次調査1区全景（西から）

図版1

那珂遺跡群周辺航空写真（1939年撮影）

図版2

1. 調査着手前（北西から）

2. 1区全景（西から）

図版3

1. 2区全景（西から）

2. 3区全景（南から）

図版4

1. 4区全景（西から）

2. 1区東壁土層（西から）

図版5

1. 1区SD01（西から）

2. 1区SD01中央トレンチ土層（西から）

3. 2区SD01（西から）

図版6

1. 2区SD01北トレンチ（北西から）

2. 2区SD01中央トレンチ（北東から）

3. 3区SD01南トレンチ 西壁土層（東から）

図版7

1. SD15（南から）

2. 4区南壁土層（北西から）

3. 調査終了後（東から）

図版8

出土遺物

I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会（経済観光文化局埋蔵文化財課）は、同市博多区那珂2丁目18番1号における那珂中学校造成工事に伴い、福岡市教育委員会教育環境部施設課から提出された令和元年6月4日付教施第74号「埋蔵文化財の事前審査について（依頼）」を、令和元年6月4日付で受理した。埋蔵文化財課事前審査係は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれていることから、周辺の発掘調査や確認調査の状況を調査し、令和元年6月11日付經理文第1-24号「埋蔵文化財の事前審査について（回答）」にて、発掘調査が必要である旨を回答した。その後、遺構の保全等に関して福岡市教育委員会教育環境部施設課と協議を行った結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、造成部分（那珂2丁目295、298、299-1）について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。令和2年4月13日から6月22日まで発掘調査を実施し、資料整理および報告書作成は令和3年度に行なった。発掘調査および整理報告は令達事業として以下の組織が行なった。

2. 調査の組織

調査委託：福岡市教育委員会教育環境部施設課

調査主体：福岡市教育委員会（経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課）

（発掘調査：令和2年度・整理報告：令和3年度）

調査総括：文化財活用部埋蔵文化財課長	菅波正人
同課調査第1係長	吉武 学（令和2年度）
	本田浩二郎（令和3年度）
調査庶務：文化財活用課管理調整係	松原加奈枝（令和2年度）
	井手瑞江・内藤愛（令和3年度）
事前審査：埋蔵文化財課事前審査係長	本田浩二郎（令和2年度）
	田上勇一郎（令和3年度）
同課事前審査係主任文化財主事	田上勇一郎（令和2年度）
	森本幹彦（令和3年度）
同課事前審査係文化財主事	松崎友理（令和2年度）
	神 啓崇（令和3年度）
調査担当：埋蔵文化財課調査第1係文化財主事	今井隆博

II 遺跡の立地と環境

福岡平野は、西は背振山系に属する油山から北に派生する丘陵によって早良平野と画され、東は三郡山地から北に延びる月隈丘陵によって柏屋平野との境界をなしている。この平野は主に背振山系から発した那珂川と、牛頸・四王寺山地から発した御笠川とによって形成された沖積平野で、河川の開析によって段丘が南北に連なっている。現在は市街化が進み旧状はほとんど窺えないが、もとは広大な農村地帯であった。

那珂遺跡群は、このような福岡平野の中央部に位置し、那珂川と御笠川・諸岡川に挟まれた中位段丘上、南北 1.4km、東西 0.9km の範囲に広がる複合遺跡である。この段丘は、花崗岩風化礫層を基盤とし、Aso-4 火碎流堆積物による下層の八女粘土層および上層の鳥栖ローム層と呼ばれる堆積物からなり、遺構面の標高は 5～10m をはかる。

那珂遺跡群の西側は那珂川の氾濫原となっているが、東側の御笠川・諸岡川による沖積低地には、弥生時代中期から古墳時代にかけての生産遺跡である東那珂遺跡や那珂君体遺跡がある。また、同一の段丘上に立地する北側の比恵遺跡群とは、遺構の分布や変遷から、弥生時代から古代にかけては本来的には一連の遺跡であったと考えられている。比恵遺跡群のさらに北側の低湿地を挟んだ海浜砂丘上には、中世の貿易都市として著名な博多遺跡群が立地する。一方、南側は鞍部を介して五十川遺跡が展開する台地に連なっており、五十川遺跡以南にも、井尻 B 遺跡や、弥生時代のタニである奴国を中心とした評価されている須玖岡本遺跡などがある。

那珂遺跡群では令和 3（2021）年度末までに約 190 回の発掘調査が行われている。その結果、旧石器時代から中世にいたる様々な遺構や遺物が発見され、主に、弥生時代中期後半・弥生時代終末期から古墳時代前期・7 世紀頃の各時代に盛期を迎える、福岡平野を代表する大規模遺跡であることがわかつてきた。最初のピークである弥生時代中期後半には、遺跡中央部を中心に、大型掘立柱建物や台地を東西に横断する大規模な区画溝、墳丘墓など、特殊な遺構が確認されている（20・21・22・114 次調査など）。さらに弥生時代終末期から古墳時代前期になると、台地を縦断する道路状遺構と那珂八幡古墳を中心とした計画的な墓域・集落域の配置へと発展する（114 次調査など）。このように「都市」的とも評価される那珂遺跡群は、5 世紀代に一時縮小するものの、6 世紀中頃に東光寺剣塚古墳の築造を契機として 7 世紀代に再び盛期を迎える。7 世紀初頭には掘立柱建物の計画的な配置がみられ、初期瓦の出土とあわせて官衙関連施設の造営が推測されている。7 世紀中頃以降は、大型掘立柱建物に加えて正方位の溝も多数発見されており、那珂郡衙がおかれた可能性も指摘されている（22・23・37・68・114・115 次調査など）。

第 181 次調査地点は、那珂遺跡群の南側中央部分に位置する。台地の高所に近い南西側の 41 次調査では、弥生時代中期後半から古墳時代初頭・古墳時代後期から 8 世紀代・12 世紀代の遺構のほか、旧石器もまとまって確認されている。調査地点の北側の道路を挟んで隣接する 44 次調査では、6 世紀後半の古墳の周溝のほか、12 世紀代の副葬品をともなう土壙墓が検出されており、台地縁辺部に近い 88 次・130 次調査でも同時期の遺構が検出されている。130 次調査では、弥生時代終末期から古墳時代初頭の布掘建物も確認された。一方、南側の那珂中学校敷地内で行われた 79 次調査では、弥生時代中期後半の住居跡や井戸、後期中葉の井戸・古墳時代後期の古墳の周溝などが、120 次調査では、埋土に行基瓦を含む磁北方向の溝のほか、包含層からは単弁軒丸瓦が出土している。

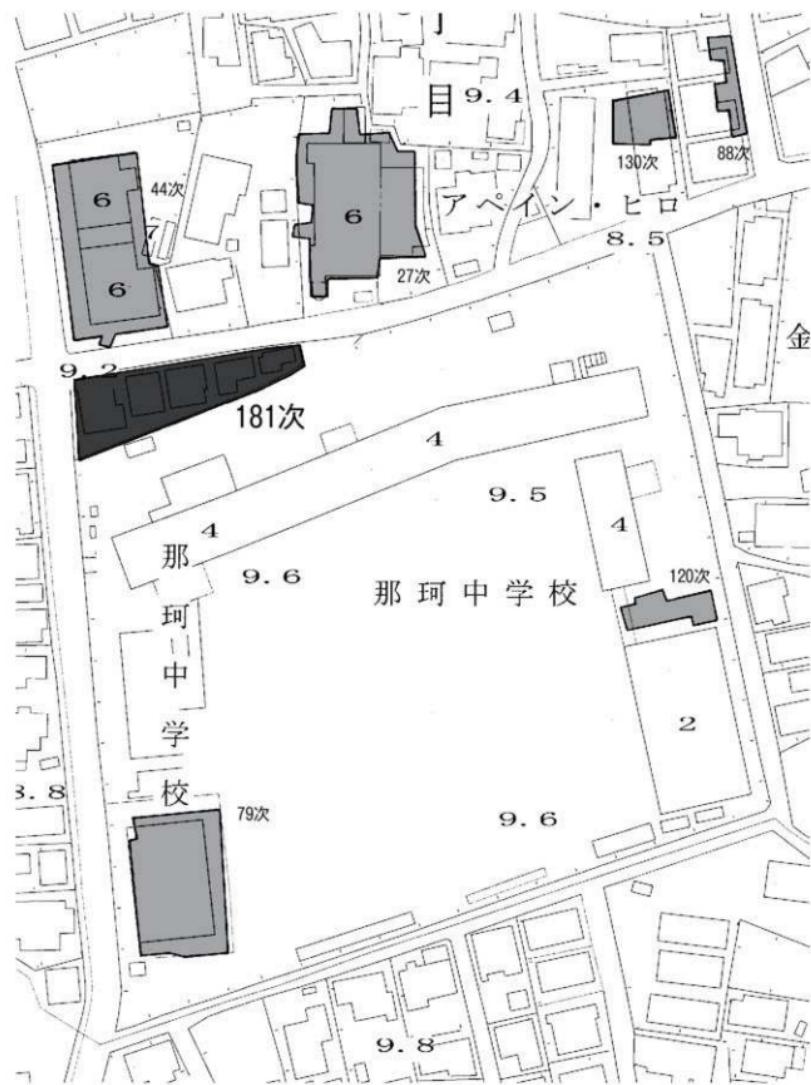


1. 那珂遺跡群 2. 比恵遺跡群 3. 五十川遺跡 4. 井尻A遺跡 5. 井尻B遺跡
6. 寺島遺跡 7. 笠抜遺跡 8. 那珂君休遺跡 9. 板付遺跡 10. 高畑遺跡
11. 諸岡A遺跡 12. 諸岡B遺跡 13. 笹原遺跡 14. 三筑遺跡 15. 麦野A遺跡
16. 麦野B遺跡 17. 麦野C遺跡 18. 南八幡遺跡 19. 雜飼隈遺跡

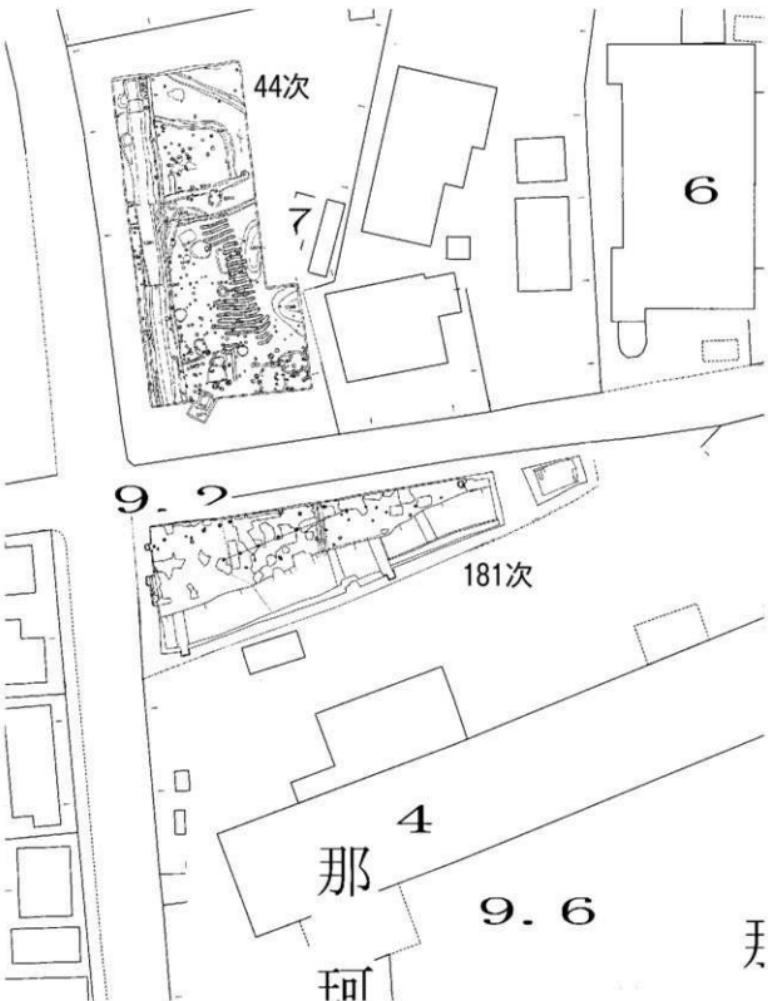
第1図 那珂遺跡群と周辺遺跡 (S = 1/25000)



第2図 那珂遺跡群調査地点位置図



第3図 調査区位置図 (S=1/1000)



第4図 調査区位置図 (S=1/500)

III 調査の記録

1. 調査の概要

第181次調査地点は那珂中学校の北西端にあり、那珂遺跡群の中での位置は前述したとおりである。令和2年4月13日に器材の搬入を行い、調査を開始した。排土を場内で処理する必要があったため、対象範囲を四分割し、第5図のとおり1区・2区・3区とし、最も東端を4区として調査を進めたとした。遺構面に至るまでの表土は重機により掘削、埋め戻しを行った。6月22日に器材の撤収を行い、調査を終了した。

調査前の現地表面は標高9.3m前後で、北側道路面とはほぼ同じ高さであるが、すでに造成されている那珂中学校の敷地よりも1m程度低い状況であった。北側の道路を挟んで隣接する第44次調査や南側の那珂中学校敷地内で行われた第79次調査では、標高9～9.5m前後で遺構を検出しており、この時点ですでに遺構の削平が予測された。近現代盛土が約50cmあり、その直下の鳥栖ローム上面で遺構を検出した。遺構面の標高は約8.8mである。

検出した遺構は溝・土坑・柱穴であり、このうち調査地点南側で確認した中学校敷地に並行する溝SD01は昭和初期の地図に記録されている水路と推定される。なお、北側第44次調査から連続すると予測された15～16世紀頃の大溝は検出できなかった。調査地点は過去に削平を受けたと考えられ、周辺の発掘調査で確認されている弥生時代・古墳時代・中世の遺構はほとんど確認されていない。出土遺物は土師器、須恵器、陶磁器および瓦等で、コンテナケース2箱分である。

2. 遺構と遺物

① 槽・柱穴列 (SA)

SA21（第6図）

調査区中央部で主軸をおおむね東西方向にとり直線に並ぶ6つの柱穴を検出した。後述するSD01や旧来の那珂中学校敷地に主軸をそろえている。検出面の標高は約8.8m。槽の全長は14m、柱間は1.9～2.2mをはかる。柱間距離から考えて、少なくとも2つの柱穴が攢乱により失われている。柱穴は円形で、検出面からの深さは15～35cm。埋土は褐色土でSD01と同一である。遺物が出土したのはSPI10・12・14のみで、図14の46に示した土師器小皿以外は同化しない。出土遺物から時期の判断をするのは困難である。

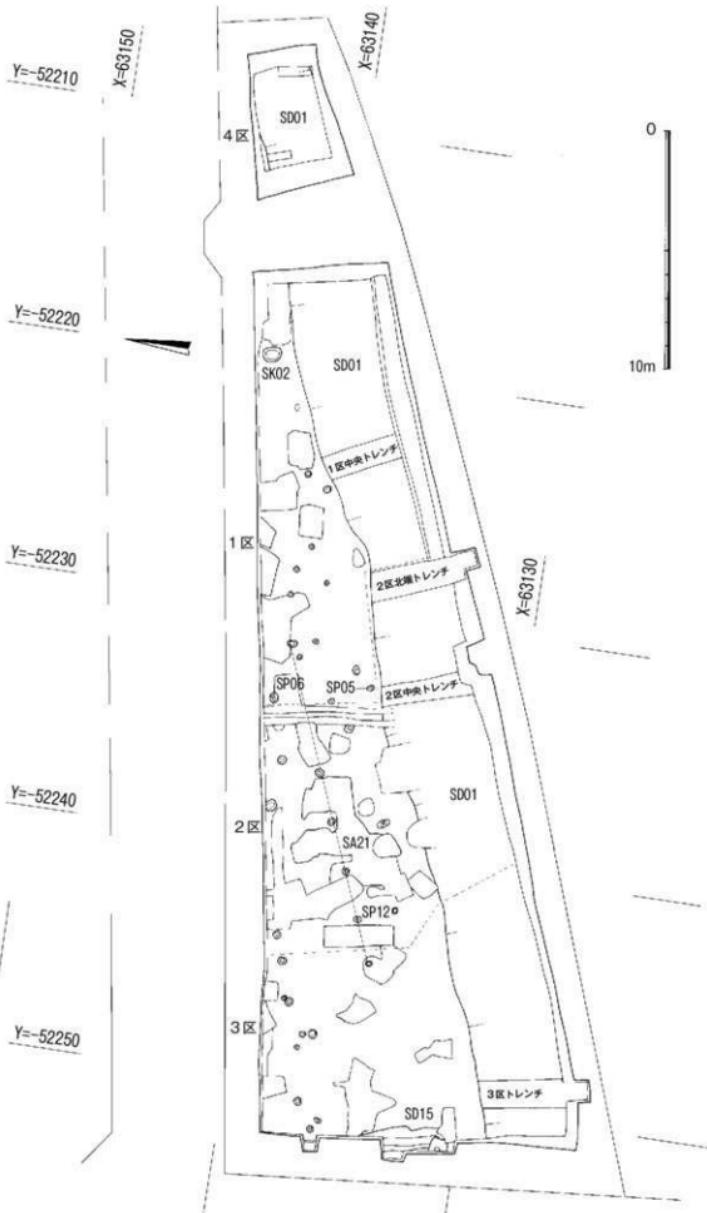
出土遺物（第14図）

46は土師器小皿。口縁の一部を欠損し、底部には明瞭に板目痕が残る。橙色を呈する。SPI12出土。

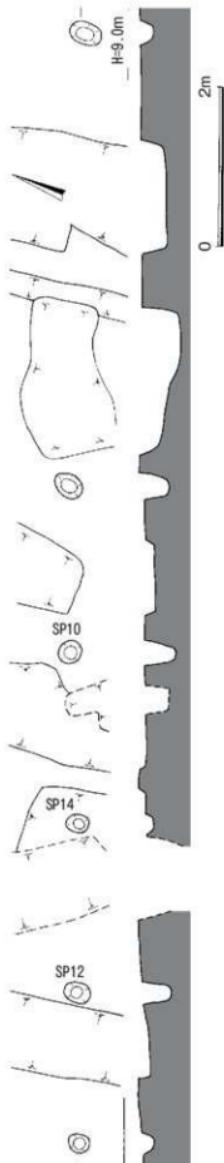
② 槽 (SD)

SD01（第5・7図）

調査区南端で、長さ約46mにわたって検出した溝である。旧来の那珂中学校敷地に沿って東西方向に主軸をもち、溝の東と西は調査区外へと続く。検出面の標高は8.7m前後。調査区全体において溝の北肩しか確認できなかつたが、調査区東端の4区では南肩の一部も確認することができ、ここでの溝の幅は約3mを測る。溝の南肩の大部分は調査区外となるため部分的なトレンチで確認したのみであるが、概ね幅4m程度の溝と考えられる。溝の断面は方形や緩いU字形が混在する。底面の幅は約1.4mで標高は6.8m程度。標高7.2～7mで確認できる八女粘土まで掘削が及んでいた。全体的に褐色の粘質土を埋土とし、溝南肩から流れ込んだ土には地山ブロックが混じる（第7図）。土層の



第5図 調査区全体図 (S=1/200)



第6図 SA21 実測図 (S=1/60)

観察を行った溝の最底部付近では、人為的に埋められた形跡は確認できず、流水の痕跡もみられない。

第16図に示した昭和初期の地図からは、調査区の南側（那珂中学校との境界部分）には東西方向に道路と水路が走っていたことがわかる。したがって、SD01はこの昭和初期に機能していた溝である可能性が高い。前述したSA21も旧来の那珂中学校の敷地やSD01と主軸を同じくすることから、昭和初期の土地利用に関係するものかもしれない。

出土遺物（第8～12図）

第8～10図は1区から出土した。

第8図1・2・4・5は肥前系磁器。1・2は皿。呉須で絵付けされている。ともに胎土は精緻で、焼成は良好。4・5は染付碗。5の内面には目跡が残る。ともに胎土は黒色粒を含む精緻なもので、焼成も良好。

3は白磁の底部である。器種は皿か。近世以降のものと思われる。両側に打ち欠いたような痕跡が残り、高台外面に赤い圓線がめぐる。6・7は中世の白磁。7は内底部の釉を輪状に掻き取っており、外底部は露胎。8は龍泉窯系青磁。内底部に文様があり、釉薬は外面高台端部までかかる。

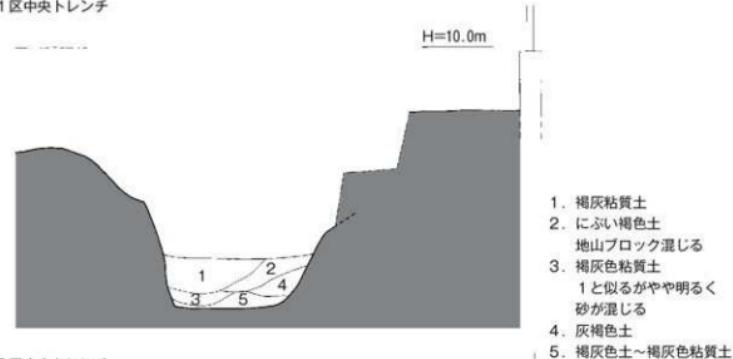
9・10・11は近世以降の陶器。9は瓶。暗褐色と青緑色、白色の3色で絵付けされている。10は碗か皿か。明褐灰色の胎土に灰オリーブの釉薬をかけている。底部外面は露胎。内面底部付近に目跡が残る。11は花瓶。底部にむかってすぼまる部分の内面にシボリ痕が観察できる。釉薬は灰オリーブ色。外底面は露胎である。

12・13は近代のものと思われる擂鉢。ともに口縁部内面から外面全体に施釉され、にぶい赤褐色を呈する。14は土師器の把手で、胎土には白色粒等を大量に含まれている。15は七輪のサナカ。埋土下層から出土した。両面に被熱した痕跡がみられる。

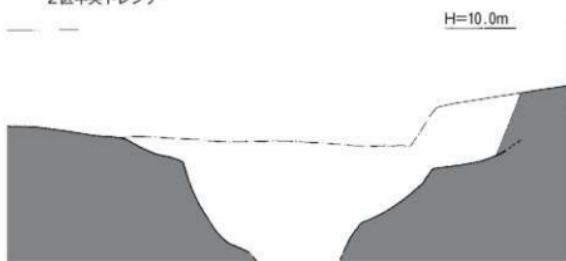
第9図16・17・18は近世以降の陶器。16は瓶。褐色の釉薬の上から、口縁部内面から外面上半部にかけて暗赤灰色の掛け釉が施されている。内面にはろくろで形成された凹凸が明瞭に残る。16は上層と中層から出土した破片が接合している。17は甕。灰オリーブ色の釉薬に白色の釉を掛けている。18も甕。口縁部内面から外面上半部にかけて薄く施釉され、内面と底部外面は露胎。胎土はにぶい黄橙色、釉薬は黄褐色を呈する。

19は土師質の土製品。火鉢か。内面口縁部や外面にススが付着している。胎土は精緻でにぶい黄橙色。

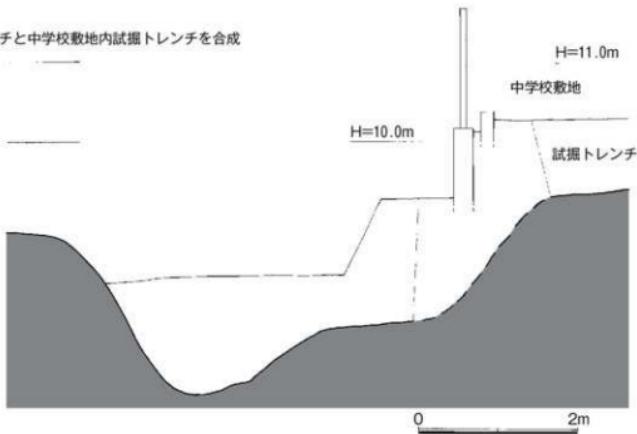
1区中央トレンチ



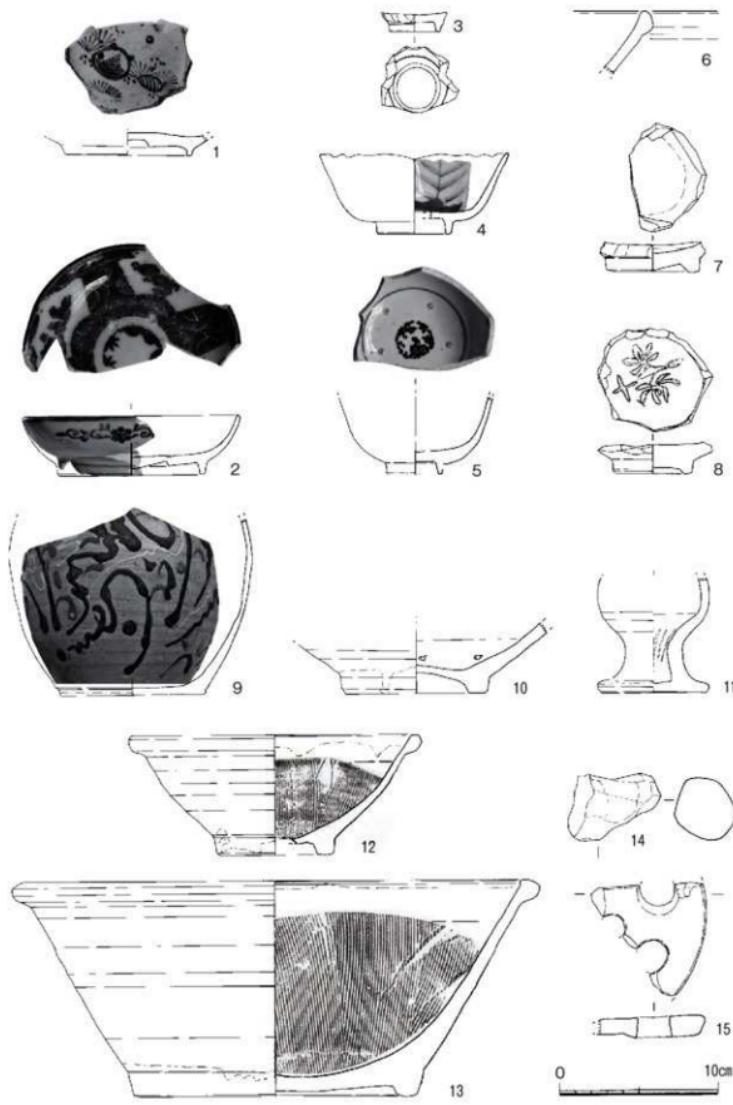
2区中央トレンチ



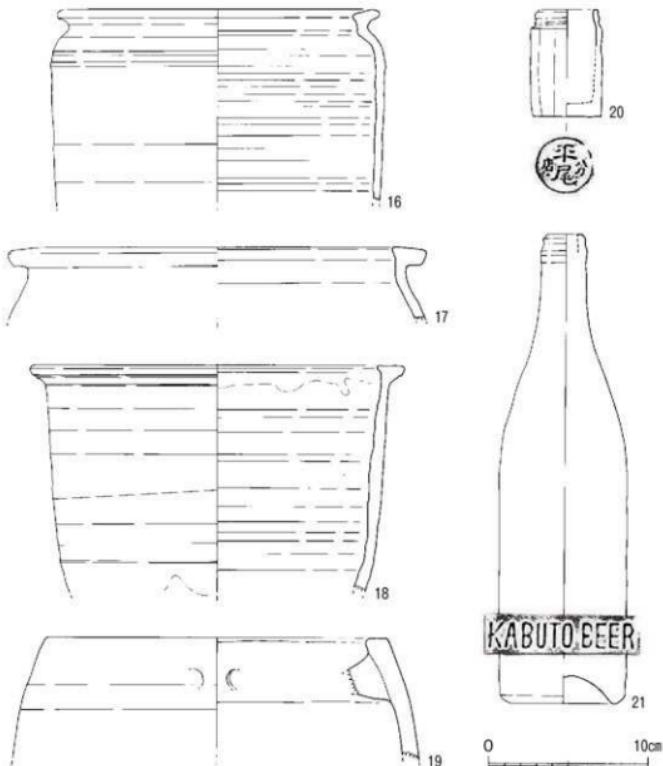
3区トレンチと中学校敷地内試掘トレンチを合成



第7図 SD01断面図 ($S=1/60$)



第8図 SD01 出土遺物実測図① (S=1/3)

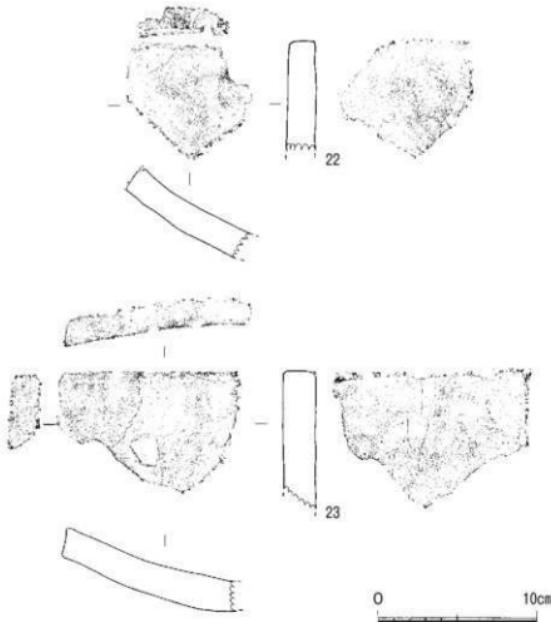


第9図 SD01 出土遺物実測図② (S=1/3)

20・21は近代のガラス製品。20は断面十角形を呈する乳白色の瓶で、ねじ式の蓋が付属していたようである。埋土上層から出土した。底面に「平尾分店」と銘がある。明治時代後半から大正時代にかけて販売されていた整髪料の瓶である可能性が高い。21は暗赤褐色を呈するビール瓶。「KABUTO BEER」と銘がある。カブトビールは、醸造業が盛んであった現在の愛知県半田市で、本格的ドイツビール「加武登麦酒」として明治31(1898)年から昭和18(1943)年まで生産されていた。

第10図の22・23は平瓦。近世以降のものと思われる。23は上層から出土。ともに焼成は良好である。

第11図の24～27は2区から出土した。24・25は須恵器で、24は蓋、25は高杯の脚部である。25の外側には自然釉がかかる。透かしは3箇所あり、外側にはややムラのあるカキメが残る。26は中世の白磁碗。内底面に圓線がめぐる。外側は露胎で内側には灰白色の釉が施されている。27は七輪。全体的に灰白色を呈し、内底面にススの付着がみられる。



第10図 SD01出土遺物実測図③ (S=1/3)

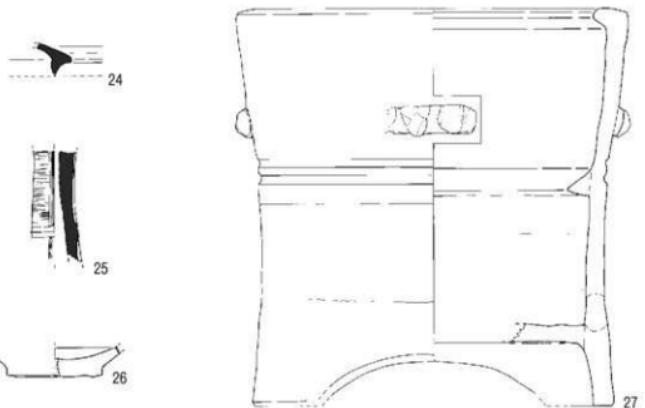
第11図の28～37は3区から出土した。28・29は弥生土器の壺の底部。ともに摩滅が著しく調整等は確認できない。30～33は須恵器。30・31は蓋。ともにかえりの端部も欠損している。32・33は高台付壺。33の外面にはわずかにヘラ削りの痕跡が観察できる。34は玉縁口縁の白磁。釉薬の色は灰白色である。35は盃か。外面に陽刻で精緻な文様が施され、高台内面を含む全体に明青灰色の釉が及ぶ。36・37は石製品。36は両面に研磨痕がみられるが用途不明。58.34gをはかる。37は風化が著しい砥石で、加工斧等を転用したものか。残存重量は128.94gである。

第12図38～42は4区から出土した。38は須恵器の壺等の容器の肩部。胎土も精緻で焼成も良好である。39は近世以降の陶器の底部。内面及び外底面は露胎で、外面のみ灰白色の釉薬が施される。40は陶器の蓋。灰オリーブ色の釉薬の上から白色の釉が掛けられているが、それにより穿たれた穴が塞がれてしまっている。天井部外面は露胎で回転糸切りの痕跡が残る。41は磁器の皿。緑色に発色した絵具で絵付けされている。脛付以外にかかる釉薬は明灰褐色～淡明青灰色を呈する。42は近代以降のものと思われる平瓦である。

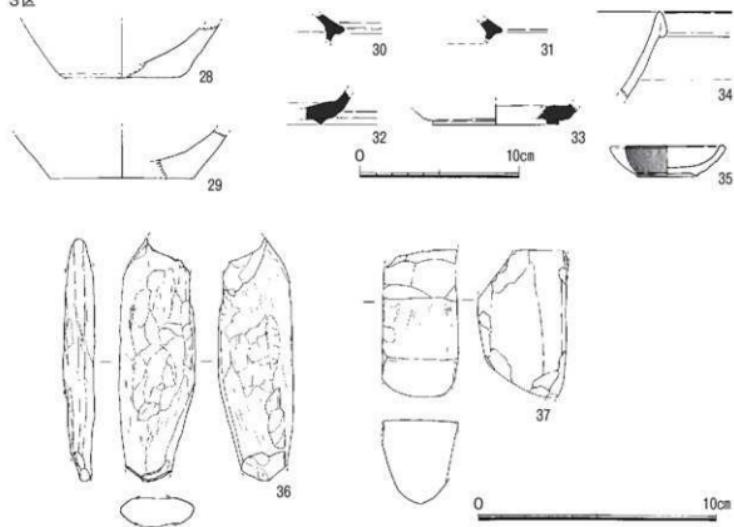
SD15（第13図）

調査区西端で、長さ約5.7mにわたって検出した溝である。大きく削平を受けており溝の底部付近のみ確認できた。おおむね南北方向に主軸をもち、溝の南は擾乱され、北は調査区外へと続く。検出

2区



3区



第11図 SD01出土遺物実測図④ (S=1/3・1/2)

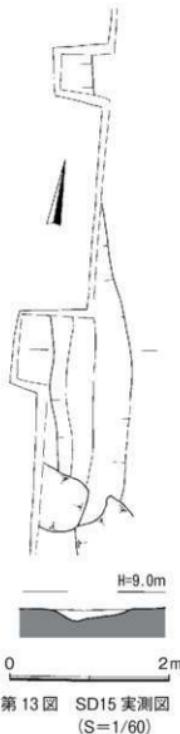
面の標高は約8.8m。溝の南側で幅は0.85～1mをはかる。残存状況が悪いので溝の断面形は分からぬ。埋土は灰黄褐色を呈する。出土遺物は小片のみで図化しえない。時期の判断は難しいが、北側の第44次調査でも同様の溝が複数見られ、中世後半頃と想定されている。



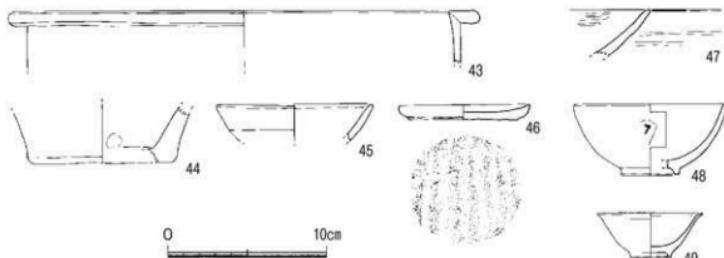
第12図 SD01出土遺物実測図⑤ (S=1/3)

③他の出土遺物（第14図）

43はSP05から出土した弥生時代中期の甕。外面から口縁上端部にかけてスึが付着している。内面は摩滅しており調整等を観察することができない。44も弥生土器の甕の底部。全体的に器面は荒れており、底部内面に指おさえの痕跡が残る程度で、調整は不明。SK02から出土した。45はSP06から出土した磁器の壺。近世以降のものと思われる。口縁端部を除いて全体に淡青灰色の釉が施される。46はSP12から出土した土師器小皿。SA21で前述した。47は瓦器碗。3区の拡張部分から出土した。48・49は4区の検出時に出土したもので、近世以降の磁器である。48は外面に具須で文様を描く碗。49は盃。淡青灰色の釉薬を高台内面も含めて全体に施している。



第13図 SD15 実測図
(S=1/60)



第14図 その他の出土遺物実測図 (S=1/3)

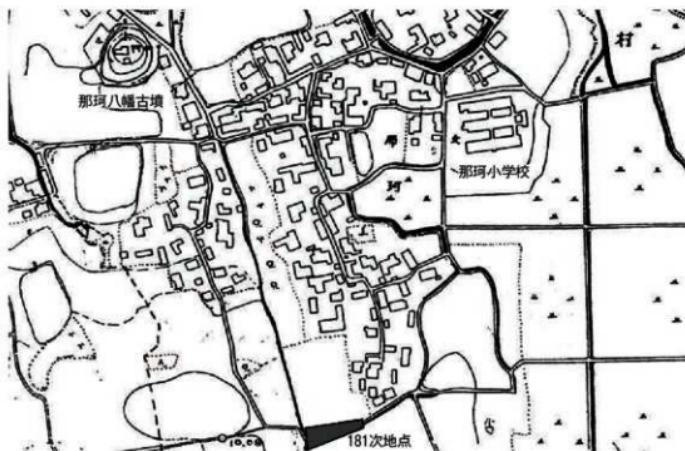
IV おわりに

今回の調査の遺構検出面は周辺の調査地点と比べてやや低く、削平のためか、周辺で検出されている弥生・古墳・中世の遺構はほとんど認められなかった。また、北側の第44次調査から連続すると予測された15～16世紀頃の大溝は、本調査区まで及ばない。削平によるものか、あるいは北側道路内で曲がっている可能性もある。

一方、本調査地点である中学校北側の三角地帯は、道路の付け替えでできた土地であり、第16図に示されているように元々は東西道路が位置していた。本調査では地図に記録されている水路であろうSD01とそこから出土した遺物により、近代の人々の生活の痕跡を確認することができた。



第15図 調査地点周辺旧地形図 (S=1/20000)



第16図 昭和初期の周辺地形図 (S=1/4000)

図 版

図版 1



那珂遺跡群周辺航空写真（1939 年撮影）

国土地理院ウェブサイト (<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>) の航空写真画像データを加工して作成

図版2



1. 調査着手前（北西から）



2. 1区全景（西から）



1、2区全景（西から）

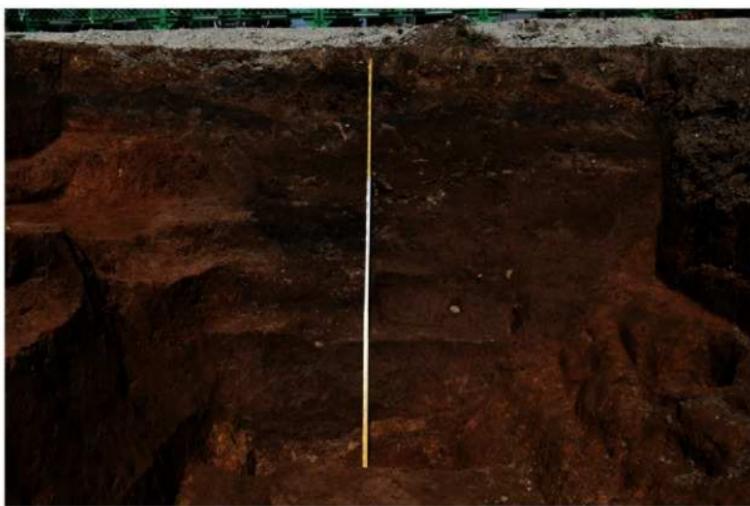


2、3区全景（南から）

図版 4



1. 4区全景（西から）



2. 1区東壁土層（西から）

図版5



1 . 1 区SD01 (西から)



2 . 1 区SD01 中央トレンチ土層
(西から)



3 . 2 区SD01 (西から)

図版 6



1. 2区SD01 北トレンチ
(北西から)



2. 2区SD01 中央トレンチ
(北東から)



3. 3区SD01 南トレンチ
西壁土層 (東から)

図版 7



1 . SD15 (南から)



2 . 4 区南壁土層 (北西から)



3 . 調査終了後 (東から)

図版 8



出土遺物

報 告 書 抄 錄

那珂86

—那珂遺跡群第181次調査の報告—
福岡市埋蔵文化財調査報告書第1444集

2022年（令和4年）3月24日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号
TEL (092) 711-4667

印刷 魚住印刷
福岡市博多区大博町8番20号
TEL (092) 291-1946
